



# 時は流れて そして夏本番！

「月日は百代の過客にして、行かふ年も又旅人也」。芭蕉の「奥のほそ道」の冒頭です。月日は永遠に旅を続ける旅人のようである、芭蕉自身は漂泊を続け「旅を栖」とした人です。

「私は常に思つて居る、人生は旅である」と記したのは若山牧水です。独特の働きと風貌とを備えていた牧水は、「我等は忽然として無窮より生れ、忽然として無窮のおくに往つてしまふ、その間の一步一步の歩みは、実にその時のみの一步一步で、一度往いては再びかへらない」と歌集「独り歌へる」でいっています。月日は永遠であり、途絶えることがありません。人は世代で連綿と連なっていますが、一人の人間にとつては一度行き着けば繰り返しはありません。生まれてから生涯を閉じるまでの戻ることのできない旅、その一度だけの片道の旅の重さや悲哀・妙味をかみしめながら生きるのが人生のよ

うです。

さて、時は流れアジサイの花はしほみヒマワリの季節となりました。ヒマワリは別名「サン・フラワー」と呼ばれています。文字通り太陽の花で、夏の化身のような黄色い輝きは強烈な自己主張をしているように見えます。

学生時代(70年代)に観たイタリア映画「ひまわり」は、今でも深く印象に残っています。戦争で引き裂かれたカップルの悲劇をソフィア・ローレンとマルチェロ・マストロヤンニが演じていました。

見渡す限り広がるウクライナのヒマワリ畑のシーンをバックに流れる、ヘンリー・マシンのテーマ曲に心を打たれたことを昨日のように思い出しています。

ウクライナほどのスケールではありませんが、地域おこしのヒマワリ畑が日本のあちこちに登場しています。

水田の転作として約35ヘクタール250万本を栽培

している所もあるようです。三次市君田町にも「百万本」といわれるヒマワリ畑があります。ちようど見ごろを迎えていると思います。

ヒマワリが注目されている理由の一つには、地球環境の保全があります。ヒマワリは、成長過程でケナフに次ぐほど二酸化炭素を吸収します。また、ヒマワリ油はリノール酸、ビタミン類たっぷりの優れものでもあります。

大きさも色もいささか暑苦しいヒマワリは、わびやさびを尊ぶ芭蕉の世界では異質かもしれませんが、明るくてきつぱりした「サン・フラワー」は今の世に求められている花でもあります。



指宿市長  
豊留悦男